

# 平成23年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 476

政策体系	24	事業分類	ソフト事業	所管部局	農林商工部 商工観光課
会計	一般会計	科目	7. 商工費 - 1. 商工費 - 3. 観光振 現年		
事業名	観光協議会事業				
細事業名	観光協議会事業				
評価表作成者				農林商工部 商工観光課	奥村健次

## 1. 事業の概要

京都府観光連盟加盟の負担金  
 京都中部圏観光協議会分担金  
 西の鯖街道協議会会費

## 2. 事業の目的と必要性

### ① 施策で目指す目標との関連付け

観光地としてのレベルアップと知名度向上につなげ、京都府域と連携を図りながら、施策目標として定める「観光入込客数200万人」を目指す。

### ② 事業を実施する必要性

京都観光の情報を蓄積し、様々な企画や全国への府域の観光情報の発信拠点である観光連盟への加入や、南丹エリアで構成する観光協議会への参画は、広域なネットワーク体制の中で連携しながら事業を行い、PR活動を進めていく上で必要なものである。

## 3. 事業費の推移

	単位	平19決算	平20決算	平21決算	平22決算	平23予算	平24計画	平25計画
決算額または計画額	千円	415	370	370	470	470	470	470
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	415	370	370	470	470	470
職員等の従事人員	人/年	—	0.65	0.19	0.10			
人件費	千円	—	4,131	1,389	861			
事業費総額	千円	—	4,501	1,759	1,331			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。  
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

## 4. 主な事業費の内訳

(社) 京都府観光連盟会費（負担金）	170,000円
京都中部圏観光協議会負担金（負担金）	200,000円
西の鯖街道協議会会費（負担金）	100,000円

## 5. 事業結果の概要

単独の自治体では実施するのが難しいような場所での観光情報の提供や、イベント開催、情報交換など広域の観光ネットワークとして連携した取組を実施することができた。

## 6. 活動の詳細

<b>(1) 会費</b>		
(社)京都府観光連盟会費 170,000円 京都府域の観光情報を一体的に取りまとめて府域観光の窓口としての各種事業を実施しており、南丹市も連盟主催事業へ参加し、多方面への観光PR活動や情報交換を行っている。	通年	京都観光宣伝販売促進会議・コンシェルジュ等への観光情報説明会・京の味巡り技比べ展観光PR・観光情報の発信・観光展でのパンフレット配布等
<b>(2) 負担金</b>		
京都中部圏観光協議会負担金 200,000円 亀岡市・南丹市・京丹波町の観光担当部署で構成する協議会。京都南丹エリアとして、連携した観光PR活動を協議し実施。	通年	単独の自治体では実施するのが難しいような場所でのイベント開催や情報交換など広域の観光ネットワークとして連携した取り組みを実施している。
<b>(3) 会費</b>		
西の鯖街道協議会会費 100,000円 京と若狭を結ぶ歴史街道「西の鯖街道」の社会的認知を高め街道沿線の市町が連携及び交流を通し地域活性化を推進するため、福井県高浜市・おおい町・京都府南丹市・京都市京北及び京都市の各団体及び個人で構成する協議会。経済効果のある事業及び歴史・文化・観光効果促進の事業の実施。	通年	西の鯖街道沿線の市町で、イベント開催や情報交換など広域の観光ネットワークとして連携した取り組みを実施している。

## 7. 所属長評価 [平成20年度から改善した点、今後の展開など]

本事業における京都府観光連盟や京都中部圏観光協議会(亀岡市・南丹市・京丹波町)への参画により、広域なネットワーク体制の中での観光PRは有効な手段である。連携するメリット(亀岡市の保津川下り、トロッコ列車などのネームバリュー)も活用することで南丹市に入込を増やすことも必要。

### 【参考】過年度の評価

#### ■平成22年度の所属長評価

本事業における京都府観光連盟や京都中部圏観光協議会(亀岡市・南丹市・京丹波町)への参画により、広域なネットワーク体制の中での観光PRは有効な手段である。  
特に京都中部圏観光協議会で京都府南丹広域振興局と共催し東京都庁において開催した「京都丹波春の観光物産キャンペーン」については、京都丹波のPRと共に市域の物産情報を発信する絶好の機会となった。  
広域観光のスケールメリットを生かし、本市への「観光入込客数200万人」を目指す。

#### ■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点  
広域なネットワーク体制の中で連携しながら、当市の観光資源のPR方法について議論した。
- ②当該事業のアピール事項  
京都観光や京都中部圏観光と連動した南丹市への誘客効果を期待する。
- ③反省点、今後の展開・方向性等  
「観光入込客数200万人」を目指した情報の発信。